

玉川教会たより

NO. 495

2017年7月16日

町田市玉川学園4-5-32

Tel. 042-732-9321

FAX. 042-732-9337

Eメール chiyosi514@yahoo.co.jp

『十字架の沈黙』 … 抜粋

ヨハネ福音書8：1～11

▼「しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた。」

何故、何を地面に書いておられたのでしょうか。その理由は3節、4節の描写から分かります。

「姦淫をしている時につかまえられた女をひっぱってきて、中に立たせた上、イエスに言った、4:「先生、この女は姦淫の場でつかまえられました。」

「姦淫をしている時」「姦淫の場で」、姦淫という言葉を二度繰り返しています。まさか素っ裸ということもないかも知れませんが、一目でそれと知れるような異様な姿だったのではないのでしょうか。人々は蔑みの目で、女を見詰めています。それ以上に好奇の目で女を見詰めています。人々は、その視線で、既に女を罰し、女を既に傷つけています。イエスさまは、この女から目をそらすために、人々とは別の方向、地面を見ておられたのです。

▼7・9節。「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」。9:これを聞くと、彼らは年寄から始めて、ひとりびとり出て行き、ついに、イエスだけになり、女は中にいたまま残された。」

イエスさまは、地面を見て文字を書き続けることで、女に向けられている人々の視線を別の方向に向けようとなされたのです。そして、「罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」と仰ることで、人々の視線を、自分自身に向けなさいと言っておられるのです。その結果は、人々は、興奮状態から醒め、冷静になり、女を責めることを止めたのです。

私たちは確かに、一時の熱狂に駆られて他人を批判し、激しく攻撃することがあります。拳を振り上げて叫ぶことさえ。しかし、もしその時の自分の姿を鏡に写して見ることが出来たなら、興奮している様子を、怒り狂っている様を見たなら、…その姿は美しいのでしょうか。きっと、おぞましく感ずる筈です。

「年寄から始めて、ひとりびとり出て行き」とは、自分の胸に手を当てて考えてみたら、女を責める資格がないことに気付いたということでしょう。女に対して激しい怒りを感じて、石で撃ち殺さなければならぬと考えている訳ではありません。しかし、女を庇うことで、その同類だと見られたくないのです。大勢の人間の背後に、自分の姿を隠してしまうのです。

▼ヨハネ8章から連想する場面があります。マルコ福音書15章12節以下。

「12:そこでピラトはまた彼らに言った、「それでは、おまえたちがユダヤ人の王と呼んでいるあの人は、どうしたらよいか」。13:彼らは、また叫んだ、「十字架につけよ」。14:ピラトは言った、「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」。すると、彼らは一そう激しく叫んで、「十字架につけよ」と言った。」

この場面を読みますと、群衆は、格別イエスさまに悪意を持っているのではありません。テロリストの英雄であるバラバを救いたただけなのです。そして、ファリサイ人の煽動に乗って、結果はイエスを「十字架につけよ」と叫ぶのです。

積極的にナザレのイエスを殺そうとしたのではなくて、バラバと言うもう一人のイエスを支持するために、ナザレのイエスは殺してもかまわないと言ったのです。

総督ピラトにもイエスさまを憎む理由はありません。唯、騒動が起これば、自分の落ち度になり、出世に響きますから、官僚的な事なかれ主義で、騒動にならないように、イエスを十字架に架けることにしたのです。

▼17節以下も読みます。「17:そしてイエスに紫の衣を着せ、いばらの冠を編んでかぶらせ、18:「ユダヤ人の王、ばんざい」と言って敬礼をしはじめた。19:また、葦の棒でその頭をたたき、つばきをかけ、ひざまずいて拝んだりした。20:こうして、イエスを嘲弄したあげく、紫の衣をはぎとり、元の上着を着せた。それから、彼らは、イエスを十字架につけるために引き出した。」 … 2頁に続く。

この兵隊たちは、ユダヤ人でもありません。ですから、特別にイエスさまを憎む理由もありません。単なる悪ふざけなのです。

▼人々の積極的な悪意がイエスさまを十字架に架けたものではありません。むしろ、無関心が、イエスさまを十字架に架けたのです。

ヨハネの8章に出て来る群衆は、同時に、ホサナと叫んでイエスさまを迎え入れた群衆であり、そして、同時に、「十字架につけよ」と叫ぶ群衆なのです。3つの場面に出て来るこの群衆は、同じ群衆です。

逆に言えば、イエスさまを十字架に架けた者こそが、十字架によって救われるのです。私は十字架に関係ない、私の手は汚れていないと主張する者は、確かに、十字架と無関係なのです。その結果は、十字架の救いとも無関係なのです。

▼マルコ福音書15章4～5節。「ピラトはもう一度イエスに尋ねた、「何も答えないのか。見よ、あなたに対してあんなにまで次々に訴えているではないか」。5:しかし、イエスはピラトが不思議に思うほどに、もう何もお答えにならなかった。」

ヨハネ福音書8章で姦淫の女を囲む群衆は、イエスさまの十字架を囲む群衆なのです。そして、ヨハネ8章に於けるイエスさまの不思議な沈黙は、十字架の上の沈黙なのです。